（別紙 12）

大学「地（知）の拠点整備事業」ホームページ掲載用原稿記入フォーム

※以下の項目を参考の上で作成をしてください（様式は自由です）。

実習企業・機関	児童養護施設　七窪思恩園
実習期間	平成　３０年　２月　２３日　～　平成　３０年　２月　２７日
学生氏名	佐藤　萌
実習プログラム	・施設に入所している子どもたちと交流 ・施設内の体育館とトイレの清掃 ・学習指導 ・食器洗い ・洗濯物たたみ
学び・気づき（300 字程度）	今回の実習を通して、職員と子どもたちの距離が近く、施設自体が一つの大家族のように感じた。家庭的養護を基本としているため、職員は子どもたちがいるときはなるべく子どもたちと関わり、子どもたちが学校などに行っているときは関係機関と連絡調整したりなど、時間をうまく使っていることがわかった。
今後に向けた抱負（200 字程度）	今後は、子どもだけでなく、親の環境についても考えていきたいと思っている。なぜ暴力を振るってしまうのか、今後子どもを施設に預ける家庭を減らすためにはどのような解決策があるかなどを考えていきたい。
インターンシップをして気づいた、実習先の魅力（300 字）	上にも記述したが、やはり、施設というよりは家庭という雰囲気が強い。それぞれのユニットにお風呂や台所、トイレがあり、そのようなところからも家庭的な雰囲気を感じるが、職員と子どもたちの関係からも家庭的な雰囲気を感じた。一緒に遊んだり、外の施設におでかけしたりなど、普通の家庭よりも一緒に関わる時間が多いのではないかと感じた。このようなことが実習先の魅力であると思う。
写真（1～3 点）	

（別紙 12）

大学「地（知）の拠点整備事業」ホームページ掲載用原稿記入フォーム

※以下の項目を参考の上で作成をしてください（様式は自由です）。

実習企業・機関	社会福祉法人思恩会　児童養護施設　七窪思恩園
実習期間	平成　30 年　　2 月　23 日　～　平成　30 年　　2 月　27 日
学生氏名	冨樫美紗子
実習プログラム	食事介助、学習支援、遊び
学び・気づき（300 字程度）	生活する環境を整える事は、生活を守ることであると学んだ。少人数のユニットで生活することで、より家庭に近い支援が行われていた。幼い子も自分で食器を洗ったり、洗濯物をしまったりしていて、決まりとして子どもたち自身にやらせることで家庭の仕事を覚えさせ、退院してからも生きていけるような支援も行っていた。様々な理由で施設に預けられた子どもたちであるため、生活のレベルに合わせた支援で生活の質を向上させることに努めていた。
今後に向けた抱負（200 字程度）	専門職として子どもたちの生活に携わっていきたいと改めて思うことが出来た。生活の中のちょっとした会話や行動の中で一人一人のニーズをくみ取るためには専門的な知識が必要であるため、実際の現場で活用できる知識を身に付けていきたい。
インターンシップをして気づいた、実習先の魅力（300 字）	園全体がチームとなり、子どもたちの生活を守っていた。児童指導員、保育士など資格を持って働いている方々ではあるが、業務内容に大きな違いはなく、ケアワークもケースワークも一緒に行なわれていた。職員の方の業務が同じであるからこそ子どもたちから要望があった際にもわからないということがなく対応していた。子どもたちは職員の方を慕っており、保育園であった出来事を話していたし、職員の方は子どもたちが新しい服を着ていたり髪の毛が伸びていたりすることに気づいて声をかけていて、常に子どもたちのことを見ているのだと思った。
写真（1～3 点）	